

観音菩薩像・勢至菩薩像

カンノンボサツゾウ・セイシボサツゾウ



指定日：平成12年(2000)2月1日 種別：彫刻

国指定重要文化財である昌林寺の本尊阿弥陀如来像の脇侍として立てられている。観音菩薩像は両手を前に伸ばして蓮台を捧持する形をとり、勢至菩薩像は合掌の形をとる。両像とも上体をわずかに前に倒し、両膝は歩みを進める形に曲げられ、来迎本尊の先導の姿となっている本来は錆下地の上に金泥彩をほどこした皆金色の姿であったと考えられるが、現状では衣文部に金泥がわずかに残っているだけで、顔をはじめ身体部には金泥は認められない。